

敦賀発電所1号機 タービン建屋ファンルーム内での火災について（原因・対策）

2024年2月8日6時12分、敦賀発電所1号機のタービン建屋2階（管理区域）のファンルーム内において、火災報知器が動作しました。当社社員が現場を確認したところ、同ファンルーム内に設置されている原子炉建屋主排気ファンBの軸受部より発煙および火花を確認しました。このため、6時38分に当社社員が当該ファンを停止し、発煙および火花が停止したことを確認しました。

当社社員が同6時21分に公設消防へ通報し、公設消防による現場確認の結果、7時34分に火災および鎮火を確認し、その旨を9時40分に公設消防より連絡を受けました。

なお、本件による敦賀発電所の他施設への影響はありません。また、人身災害の発生はなく、周辺環境への放射能の影響もありません。
（2024年2月8日お知らせ済み）

原因調査の結果、当該ファンには原子炉建屋主排気ファンA（以下、「ファンA」という。）のために製作した主軸と軸受固定ナット（以下、「固定ナット」という。）が取り付けられていたため、ファン回転方向と同一方向に固定ナットが締付けられており、固定ナットがゆるみやすい状態※であったことを確認しました。

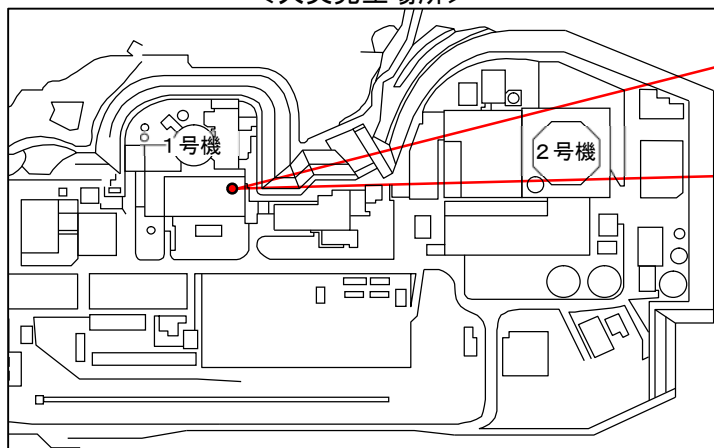
このため、当該ファンの運転に伴い、固定ナットのゆるみが発生して軸受が損傷し、主軸の振れが増加したことで軸受箱フタと接触して発煙・火花が発生したと推定しました。

対策として、当該ファンとファンAの主軸および固定ナットを新品に取替え、ゆるまない方向に固定ナットを締付けます。

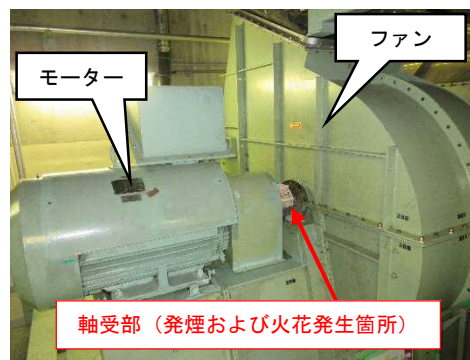
なお、現在、ファンAについては固定ナットのゆるみ止め等を行った状態で運転しております。

※ファンA：反時計回り、ファンB：時計回り。固定ナットについてはゆるみ防止のため、ファン回転方向に対して逆方向に締付ける。

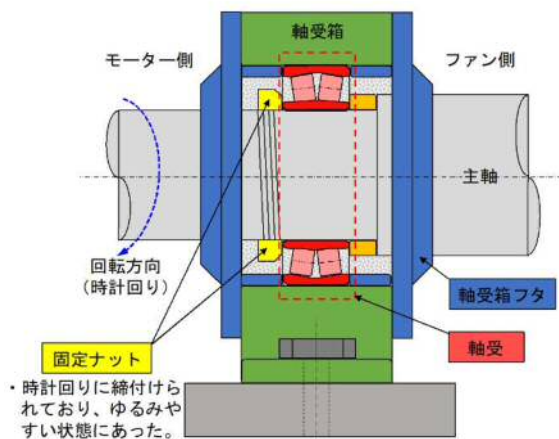
＜火災発生場所＞



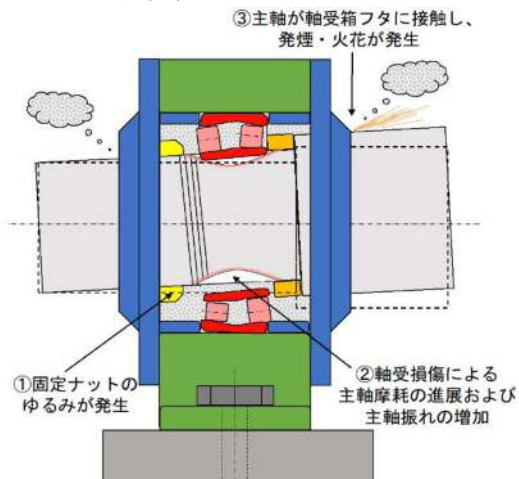
タービン建屋2階ファンルーム
（原子炉建屋主排気ファンB）



＜ファンB軸受部断面図（火災発生前）＞



＜火災発生メカニズム＞



以 上